

地域資源活用

⑥公益財団法人にいがた産業創造機構

「デザイン視点での企業支援 ニイガタ IDS デザインコンペティション、百年物語プロジェクト、Design LAB」(2020年優秀賞)

受賞理由：1990年代以降、新潟県が「デザインとマーケティング」による生活関連産業振興を開始し、同機構を中心に様々な事業が実施されてきた。

具体的には、①「地域発ブランド」を構築し得る産業の育成を目的に、県内企業の優れた商品や仕組みを表彰する「ニイガタ IDS デザインコンペティション」、②新潟発の国際ブランドプロジェクトとして新商品開発から国内外見本市等への出店まで企業と共同で進める「百年物語プロジェクト」、③デザイン視点で企業戦略策定から商品企画・プロモーションまでを体系的に支援し、製造業とクリエイターのマッチングなどを行う「Design LAB(デザイン・ラボ)事業」を3つの柱として取り組んでいる。これらの取組により、コンペティション総出品点数が2,164点、百年物語商品売上が約25億円に達し、また、県内産業のデザインマインドの醸成やデザイン力が強化され、地元クリエイターの活用も増加した。

(実施者)

公益財団法人にいがた産業創造機構

(事業の背景及び経緯)

にいがた産業創造機構では、新潟県の産業活性化を目的に「むすぶ」「育てる」「創る」という機能を発揮しながら「創業・経営革新の促進」「次代をリードする産業群の創出」に取り組んでいる。

「次代をリードする産業群の創出」には、時代や社会課題に対応する魅力あるモノやコトの創造、それを担う人材の育成、流通化までの一貫した支援が求められている。にいがた産業創造機構では、2003年の設立以前から新潟県が実施してきたデザイン視点での支援を引き継ぎ、デザインコンペティションや国際ブランドの構築プロジェクト等に継続的に取り組んで来た。2019年度、さらなる支援の充実を目指して、様々な支援策を体系的に実施するDesign LABをスタートさせた。

(事業内容)

【ニイガタIDSデザインコンペティション】

1990年度から継続実施。県内企業の優れた商品や仕組みを表彰するコンペティション。「地域発ブランド」を構築し得る産業の育成を目的に実施。

【百年物語プロジェクト】

2003年度から継続実施。新潟発の国際ブランド構築プロジェクト。「百年後にも大切にしておきたい生活文化を楽しみ、維持し、継承していくための道具」を基本コンセプトに、新商品開発から国内外見本市等への出展までを企業と協働で進めている。

【Design LAB(デザイン・ラボ)】

2019年度から事業開始。デザイン視点で企業戦略策定から商品企画、プロモーションまでを体系

的に支援。デザインやプロモーションの相談、製造業とクリエイターのマッチングなど幅広く事業を実施。

(成果)

デザインコンペティションでは、1990年の第1回から2019年の第29回までで述べ2,000点以上の製品に対して審査及びアドバイスを行なって来た。コンペティションを通じてブラッシュアップを図った多くの製品がグッドデザイン賞をはじめ国内外でのデザイン賞の受賞や、流通化に成功している。百年物語プロジェクトでは、2003年のスタート以来60社余りが参加。数多くの付加価値の高い商品群を市場に送り出し、年間約1億円（出荷額ベース）の売上を継続して達成するなど、地域発のブランディングプロジェクトとして大きな成果を上げている。上記事業を通じて数多くのブランド創出にも寄与しており、海外市場への展開などの事例も多い。

(事業に取り組んで苦労したこと)

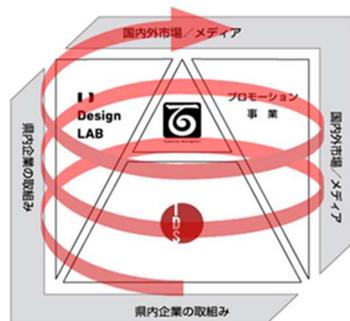
事業の推進にあたっては、デザイナーなどの外部専門家との協力が不可欠となるが、支援機関として専門家と企業の間をカウンターパートとして繋ぐ役割が強く求められる。専門家と企業の認識やスピードの違いなどを埋め、スムーズなコミュニケーションを推進することは非常な苦労を伴うが、当機構の長年に渡る取り組みにより獲得した支援ノウハウにより対応している。

(事業の成功要因)

商品の企画、デザイン、ブランディング、プロモーション、流通化までの各段階をデザイン視点で体系的に支援することで、各企業の進捗・熟度に応じてきめ細やかなフォローアップを行うことが可能となり、成功に結びついていると考える。また当機構のデザイン視点での支援は、企業の経営戦略も含めたデザイン開発力の向上を目標としており、デザインやブランディング、プロモーションなどについては企業自らが取り組むことを基本としている。相当な時間を要するが、確実に企業にノウハウが定着し、トップランナーの育成に結びついている。

デザイン視点での企業支援 事業の位置付け

新潟県内企業の活動をデザイン視点で体系的に支援する。



3つの事業は、企業の成長段階やニーズに応じて、フレキシブルに活用できる仕組みとしている。

百年物語プロジェクト



H15年 プロジェクトスタート時

0円

H17~R1年度 累計

約25億円

小売額ベース

デザイン視点での企業支援 波及効果 (地域内)

デザインマインドの醸成とデザイン力の強化

デザインコンペティションでは、1990年の第1回から2020年の第30回までで述べ2,164点の製品に対して審査及びアドバイスを行なっており、県内企業のデザインマインドの醸成に寄与してきた。

コンペティションを通じてブラッシュアップを図った多くの製品がグッドデザイン賞をはじめ国内外でのデザイン賞の受賞や、流通化に成功している。

全国のグッドデザイン賞 受賞数ランキング (2019)

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	受賞総数
都道府県	東京都	大阪府	神奈川県	愛知県	京都府	新潟県	1,435件
受賞数	632	153	69	53	30	29	

ベスト100 5件
グッドフォーカス賞 (技術・伝承デザイン) 1件

地元クリエイターの活用拡大

デザインコンペティションでは、毎年出品者の3割程度が新規参加であり、新たな商品開発やブランディングに取り組む事業者増に結びついている。また、近年は県内企業と県内クリエイターの協業による作品も増加傾向にあり、地域におけるデザインへの意識が高まりつつある。

Design LABのスタートにより、これまでに当機構と接点のなかった企業の活用も増加しており、県内のクリエイターとの協業も増加傾向にあり、デザイン関連事業への注目は高まりつつある。

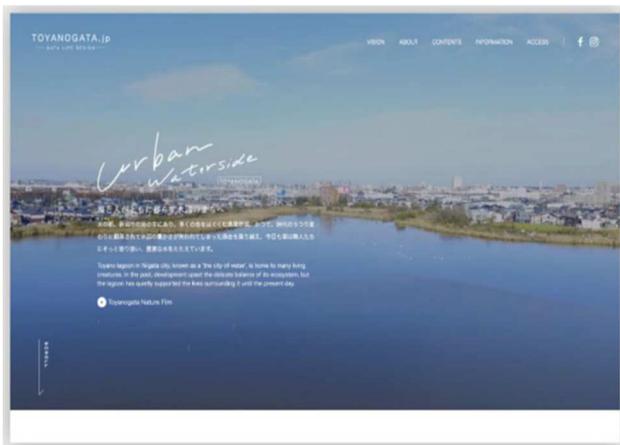
【受賞後の取組について】

○ ニイガタ IDS デザインコンペティション

第 31 回ニイガタ IDS デザインコンペティションを開催。R2 年度より、企業活動を取り巻く状況の変化や自然環境への共感・共生や個人の多様性への対応などの視点を踏まえて、「モノの色や形」だけではなく、作り手の思いやこだわり、企画から生産・販売までのプロセス、そして社会へのコミュニケーション、多様性や環境変化に対応できる商品进行评估する枠組みに内容をバージョンアップして実施。

2020 年 9 月から公募開始。県内企業および団体・個人から 98 点/80 者からエントリーがあり、2021 年 3 月にオンラインにて審査会を実施し、各賞(12 賞)を決定した。最高賞の IDS 大賞は、Urban Waterside Toyanogata -潟と人がともに暮らす水辺のまちへ-(株式会社 U・STYLE)。当コンペティション史上初のプロダクト以外の作品が大賞を受賞。「モノからコトへ」と、デザインのカバー範囲が大きく広がりつつある世相を反映した受賞となり、当機構のデザイン支援の今後の方向性を示唆するものとなった。

<https://www.nico.or.jp/ids/>



Urban Waterside Toyanogata

-潟と人がともに暮らす水辺のまちへ-

新潟市内にある鳥屋野潟は、高度成長期の水質汚濁から近年人々の努力と自然本来のレジリエンスにより、環境やローカルに寄り添った新しい動きが生まれるエリアとして生まれ変わった。その鳥屋野潟の価値を伝えるコンテンツ開発と発信の取り組みが審査委員に高く評価され、大賞となった。

左画像は、受賞ウェブサイトのトップページ

<https://toyanogata.jp/>

○ 百年物語プロジェクト

R2 年度より、商品ラインナップの充実と、より多くの企業にプロジェクト参加の機会を提供することを目的に開発手法を見直し、既存商品のブラッシュアップによりブランド参画を目指す「百年物語・チャレンジ」、既開発商品を改良し市場投入を目指す「百年物語・Re:design ワークショップ」、従来型の「百年物語・新規商品開発」の3つのコースを用意。新たなチャレンジャーを迎えて複数の新商品開発を進めている。また、国内でのさらなるブランドの知名度向上を目指して、首都圏でのプロモーション活動を強化。東京の有楽町と新橋の高架下を開業した「日比谷 OKUROJI」内の民間の新潟セレクトショップ「NIIGATA100」 <https://niigata100.com/>での定期的な店頭プロモーションの実施や、東京インターナショナルギフトショー LIFE X DESIGN への出展などを行っている。



百年物語・チャレンジにより開発・上市した銅製の「酒器」



ギフトショー LIFE x DESIGN 出展

○ Design LAB

R3年度より、企業の強み(ポテンシャル)を活用して商品開発やブランディングなどの新たな事業展開の支援をスタート。また、商品企画・ブランディング・デザイン・プロモーションなどを、まとめて相談できる「デザイン相談」に集約するなど、企業が利用しやすいようメニューの見直しを図り事業を実施。デザインコンペティションの出品企業などのフォローアップも含め、総合的なデザイン支援体制として継続する。